



東京女子医科大学病院循環器内科

伝統と先進医療の総合力で目指す“患者様のためのCardiology”

萩原 誠久 教授

【沿革】 東京女子医科大学病院循環器内科は、1955年に東京女子医科大学附属日本心臓血圧研究所の内科部門として設立され、以後1967年に日本で最初のCCUを設立するなど、わが国における循環器臨床のパイオニアとしての役割を果たしてまいりました。現在は伝統に支えられながら先進的医療を進めるのみではなく、全人的医療のできる多くの循環器専門医を輩出することを目指しています。

【診療】 年間外来患者数は延べ約7万人、入院患者数は延べ約3万人で、心臓カテーテル検査約2,000件、心臓エコー検査約13,000件、冠動脈インターベンション約550件、下肢動脈インターベンション約300件、カテーテルアブレーション約400件、植え込み型除細動器および心室再同期療法を含むペースメーカー植え込み術約300件、心臓核医学検査約2,000件、心臓CT・MRI約600件など最先端の薬物および非薬物療法を積極的に実施しています。大学病院ならではの複雑冠動脈病変、重症不整脈に加えて、重症心不全については関東の心臓移植認定施設の一つとしての責務を担うべく、他施設からの重症心不全症例のご相談や受け入れを行っています。そのような症例では心臓移植申請を検討しつつ、集学的な心不全管理を心臓血管外科と協力し、植込み型補助人工心臓装置(LVAS)の装置につなげるなど、診療科を超えたシームレスな医療を行っています。また、経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)、経皮的僧帽弁接合不全修復術(MitraClip)、エキシマレーザーなどを用いたリード除去手術など、最先端の治療手技を行っています。

【教育・研修】 入局後、大学病院内で循環器内科を主とする専攻医研修を2年間(ローテーション体制:病棟、CCU、カテーテル検査室、エコー室、放射線画像診断部など)行い、関連病院(いずれも循環器領域で地域の中核を担う施設です)での2~4年間の研修を経て、大学病院で指導医となり、医療練士制度を通じて総合内科専門医、循環器専門医、各専門医、学位取得を目指します。

【研究】 上記のように症例数が極めて多いことが、臨床研究において大きな強みになっています。心不全、心筋症や不整脈の研究に加えて、虚血性心疾患においても透析症例が多いことや、約20施設の関連病院を含めた多施設共同研究からの臨床研究創出など、多くの実績があります。また近年進歩の目覚ましい再生医療の分野においても、関連する医用工学施設との連携や心筋細胞シートの研究など、最先端分野での研究を行っています。

【入局】 例年、地域や大学を問わず多くの施設から、後期研修医の先生方が入局しています。当科では経験できる循環器疾患の領域と症例数が圧倒的に多いこと、病棟、集中治療部門、検査部門などをローテーションすることで、それぞれを集中して研修できることが最大のメリットです。ぜひ一緒に患者様のための治療・研究に取り組みましょう。少しでも興味を持たれた方がいらっしゃいましたら、一度ご連絡していただき、見学にいらしてください。見学にいらしゃれば、必ず当科の魅力をお伝えできます。ご連絡お待ちしております。

文責：南雄一郎(医局長)



■ HOSPITAL DATA

東京女子医科大学病院 循環器内科

〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1

問い合わせ ▶ meditop.au@twmu.ac.jp

HPにはこちらのQRコードから ▶



| | |
|------|-----|
| 医局員数 | 67人 |
| 指導医数 | 39人 |
| 研修医数 | 24人 |



医局紹介

MEDICAL OFFICE

全国の医局情報をピックアップ!